

—まちづくり・地域貢献 通信—

住む人と建築士が協働して地域をつくる

地域貢献通信 No.23

平成25年度 地域貢献助成事業 審査報告

まちづくり委員 堀内 秀哲

■助成審査

去る7月、地域貢献活動助成事業の受付が行われ、県内5団体から申請書が提出されました。まちづくり委員会にて予備審査を行った上で、正副会長による地域貢献活動センター委員会を8月に開催し審査を行いました。申請者側の都合により2団体が申請を取り下げ、審査基準に合致しない1件は不採択となり、最終的に以下の2団体の事業に助成を決定しました。

■助成決定団体

①中部ブロックまちづくり委員会

事業名：「親子で犯罪から身を守るまちづくり」

助成額：80,000円

事業内容

子供にとって安全なまちづくりを、建築士と親子がワークショップやセミナーなどを通して学び、実践していく。今回は榛原地区を中心に具体的な活動を行い、その成果を中部ブロック全体へ展開していく。

協力団体

- ・静岡市科学館るくる
- ・NPO法人静岡県防犯アドバイザー協会

②入野まちづくり研究会

事業名：「入野路地裏探検隊partⅡ」

助成額：120,000円

事業内容

浜松市入野地区に現存する路地や古民家群を対象に、町並み保全や歴史的建築物再生のための調査を行う。地域の文化資源を住民や次世代へ伝え継承するため、地域住民を対象としたまちづくりシンポジウムや、路地裏探検隊、街歩きを開催する。

協力団体

- ・浜松市（地域力向上事業）
- ・入野地区自治会

■助成講評

本助成事業は、「住民と建築士が協働して地域をつくるために、建築士が参画する地域貢献活動を支援する」ことを目的に運営されています。採択された2件は、共にこの目的に適った事業であり、建築士の職能を十分発揮し、当会の公益目的事業として、その成果を期待します。

また①の案件は、日常的な委員会活動の範疇に主眼を置く内容と解されますが、過去の事例を勘案し今回は採択としました。本助成事業を取り巻く諸般の事情に鑑み、今後は助成ガイドラインの見直しを含め、制度創設時の目的に沿った運営を再検討することになりました。

地域貢献助成事業 追加募集のお知らせ

○助成対象事業

(公社)静岡県建築士会会員が地域住民と協働して行う「まちづくり活動」で、営利を目的としない地域貢献活動。平成25年度内に事業が完了するもの。

○助成内容

1団体当りの助成上限20万円
助成額は助成対象事業費の1/2以内
助成対象は単年度事業
採択数は予算の範囲内

○募集スケジュール

受付開始 平成25年10月 1日(火)
応募締切 平成25年10月31日(木)
17時必着
助成決定 12月上旬

[問合せ・応募書類提出先]

(公社)静岡県建築士会事務局 担当清水
TEL 054-254-9381 FAX 054-273-0478

古材文化の会 全国集会

まちづくり委員会 堀内 秀哲

9月21・22日に『古材文化の会』の第18回全国集会在浜松市にて開催されました。「釜屋建て民家と伊豆石の蔵を見学し、地域のまちづくりを学ぶ」をテーマに、この地方の特徴的な古民家にスポットを当てた企画です。建築士会のこれまでの活動と繋がる部分があり、西部ブロックまちづくり委員会から4名が参加し交流を持ちました。

■古材文化の会

京都に本部を置き、古建築や古材の活用促進と、伝統文化や建築技能の継承を目指した活動を展開しています。今回の参加者は大学教授をはじめ、建築士、文化財所有者、古民家暮らし実践者、主婦など様々な背景をもった20名ほどのメンバーでした。専門性を持ちながらも生活者・利用者の視点を大切にしていることが、京町屋の再生などの具体的な実績を残している強みであるように感じました。

■釜屋建て民家



静岡県天竜川流域から愛知県豊川流域にかけてのみに見られる「釜屋建て」という形式は、母屋と釜屋の棟が直交するように建てられた分棟型の民家です。その代表的例として、新城市にある重要文化財「望月家住宅」を見学しました。その後浜松市川名にある築300年以上の「前嶋家」へ移動。こちらは分棟型の名残を残した古民家で、前嶋さんご夫婦はこの家を愛し、畑仕事や田舎暮らしを楽しんでいる様子。



今後の継続性に関して、建物のハード面を健全化する改修工事のあり方と、建物や暮らしを継続し伝承していく仕組みやソフト面での課題について、所有者と参加者の間で意見交換がなされました。

■伊豆石の蔵

浜松市笠井地区では地元まちづくり団体が加わり、石蔵や町家、路地を巡るまち歩きを行いました。笠井は織物で栄えた町で、風情を持った佇まいが今も当時の記憶を留めています。まちには幾棟もの伊豆石の蔵があり、建物の魅力とともに地域の歴史資源として評価されました。



地元住民との意見交換では、建物や町並みをまちづくりへどう活かしていくか、何を目指すべきかがテーマになりました。関西大学名誉教授の永井会長は「自分のまち自慢をもっとすべきだ。まちの個性を高めることが、魅力的なまち、住みよいまちづくりに繋がる。古民家や歴史的建築は、それ自体が貴重な資料であり文化である。建物は語りだすよ。」と心に残るお話をされました。地域の皆さんや、私たち建築士会会員にも有意義な機会となりました。